

第 35 回四国内視鏡外科研究会開催のご挨拶

この度、2023 年 2 月 25 日（土）に徳島市徳島駅前の JR ホテルクレメント徳島にて第 35 回四国内視鏡外科研究会の開催をお世話させていただくことになりましたので、ご挨拶申し上げます。

本研究会は香川県立中央病院の塩田邦彦先生を中心に内視鏡下手術に関する学術の進歩、知識と技術の普及、並びに施設の協力を図ることを目的に平成 5 (1993) 年に設立された香川県内視鏡下談話会を前身とする伝統ある研究会です。現在は代表世話人である愛媛大学医学部消化管・腫瘍外科学講座教授 渡部祐司先生のもと、四国という枠組みのなかで領域を広げて大きく発展しています。このような中、今回は当番世話人としてご指命をいただき大変光栄に思っています。

私自身も当初より当研究会に世話人として参加させていただき、内視鏡手術黎明期からコモディティー化して標準術式となり、次にロボット支援手術の登場とさらなる適応拡大の時代まで関わることができました。技術や機器は進歩しそしてまたコモディティー化する。これを繰り返して外科手術は進化してきました。しかし外科手術を含め医療技術はまだアナログ部分が多く残っている分野であり、IoT、AI の今後の急速な導入を強く期待したいところです。人は間違えるものです。ヒューマンエラーを極限まで減じる情報技術の進展が医療技術をコントロールできるまで、医療者は安全性を担保するため、たゆまぬ努力を続けていくしかありません。当研究会は四国の内視鏡外科のレベルを上げる、すなわち成績向上と安全性向上を目的とし、今後も存在し続けることを期待いたします。

新型コロナウイルス感染症は予想を裏切って、毎年特に当研究会開催時期の 2 月頃には蔓延するというサイクルをくりかえし、現在は第 7 波まっ最中で皆様の病院もスタッフ・患者に感染者・濃厚接触者が出て運営が大変な状態であろうことと存じます。2023 年 2 月がどのような状況かは予想できませんが、以前のような現地開催を目指して 2 回も延期をお願い申し上げたので、是が非でも開催するつもりです。

前回の当番世話人である岡野先生の斬新な取り組みを踏襲し、テーマを“今一度安全性を追求し、手術をアートに” として研究会内容を考えています。今まで通りの多くの領域からの一般演題に加えて、トラブルとリカバリーに関わる一般演題の募集を考えています。

さらには岡野先生に追従して、素晴らしい企画であった全員討論会 “各科から学ぶ治療成績・安全性向上のヒント” を企画予定です。適応拡大に伴い各科ともにロボット手術を始めとする内視鏡外科手術の導入拡大が進んでいます。各科がどのように工夫して新規手術を安全に導入しているのか、各領域からの報告をもとに討論をしていきたいと考えています。各科における日頃対象となることが少ない領域に対する手術は、目からうろこの手技の宝庫かも知れません。

更に今回スポンサード・ランチョンセミナーに、未だ企画中ですが消化器領域における最新手技の実践と安全性の担保に取り組む演者を招請予定としています。また、ご発表演題の中

から最優秀演題賞、研修医奨励賞を選び、表彰することも継続したいと考えています。
多くの方々にご参加と演題をご応募いただければと存じます。

第 35 回四国内視鏡外科研究会 当番世話人

八木 淑之（徳島県立中央病院副院長）